

新登録答申文化財概要（三重県）

● 旧高北家住宅（名張市）

【名称】旧高北家住宅主屋

きゅうたかきたけじゅうたくおもや

【種別】国登録有形文化財（建造物）

【所在地】三重県名張市上八町

【年代】昭和36年頃（1961年）／昭和56年移築、平成29年改修

【建築面積】175㎡

旧高北家住宅は、大正2年創業の総合農機具メーカーの創業者である高北新次郎氏が建てた住宅で、客人をもてなす場としても利用されました。昭和56年に名張市公民館（現・名張市民センター）の建設に伴い名張市の所有となり、西へ30mほど曳家移築されました。現在は貸館として利用されています。

主屋は木造平屋建てで、屋根は入母屋造（いりもやづくり）です。田の字型に配置された4間の和室のうち2間には床の間があり、茶室として利用する炉も備えられています。座敷境の欄間には、生業にちなんだ農耕馬と犁（すき）をモチーフとした彫刻があります。創業100年を超える農機具製造業の創業者の住宅として、上品でありながら質実剛健な造りとなっています。



主屋（南から）



和室



欄間

新登録答申文化財概要（三重県）

● 長慶寺（名張市）

【名称】長慶寺本堂・庫裡

ちょうけいじほんどう・くり

【種別】国登録有形文化財（建造物）

【所在地】三重県名張市蔵持町里

【年代】本堂：享保12年（1727年）

庫裡：天明元年（1781年）／江戸末期増築、昭和後期改修

【建築面積】本堂：127㎡、庫裡237㎡

長慶寺は市街地北西の小高い丘の上にある真言宗の寺院です。

本堂は境内西側に東面して建つ入母屋造（いりもやづくり）裳階（もこし）付きの建物で、正面に向拝（ごはい）をつけています。内部は内陣・外陣・両脇陣に分かれ、内陣奥に須弥壇（しゅみだん）を構えます。向拝の木鼻（きばな）や臺股（かえるまた）などの彫刻が秀逸です。

本堂の北東に位置する庫裡は、平屋建（ひらやだて）の建物です。庫裡は、僧侶たちを集め、寺子屋のような勉強の場として利用されたといわれています。床の間に違い棚、付書院（つけしょいん）を備えた座敷や、表玄関にしつらえた式台（しきだい）など、格式高い建物となっています。

本堂は江戸時代中期後半、庫裡は江戸時代後期前半に建てられたことが棟札や鬼瓦からわかります。名張市内に残る最古の寺院建築として、当時の建築様式を知る上で重要な文化財です。



本堂（南東から）



庫裡（南から）



本堂 ごはい 向拝の彫刻



庫裡 床の間

新登録答申文化財概要（三重県）

● 旧伊賀焼陶磁器工業協同組合事務所（伊賀市）

【名称】旧伊賀焼陶磁器工業協同組合事務所

きゅういがやきとうじきこうぎょうきょうどうくみあいじむしょ

【種別】国登録有形文化財（建造物）

【所在地】三重県伊賀市丸柱

【年代】昭和14年（1939年）／令和3年改修

【建築面積】132 m²

伊賀市丸柱は伊賀焼の産地であり、現在も多くの窯元が窯業を営んでいます。大正12年（1923年）に窯業者の連携で伊賀焼同業組合が設立され、その後、伊賀焼陶磁器工業組合、伊賀焼陶磁器工業協同組合へと改称されました。組合では粘土山の管理や製土工場、物産展への出品、労務関係などの総括的な業務を行っていました。

水色の下見板張（したみいたばり）と三角屋根の玄関ポーチが印象的な外観は建築当時の様相を残し、伊賀焼のふるさとを象徴する建物となっています。内部は和室でしたが、現在は改修され、飲食店として利用されています。



旧伊賀焼陶磁器工業協同組合事務所（北東から）



室内